



世界
萬室

立身大福帳

六

函 93
册 7

特別
~13
4149
6



13
4149
6



徳麻呂は天南星といふ星乃事なり
とつり又一説は文皇帝は此星に天
より老人の翁を降させしめて長
貧乏なるもの星と稱ふは何れそを
徳とすけ稱となすは麻呂と稱ふ
かゝるに此星と稱ふは又百のつ
又百の麻呂の翁は富貴の中人を成
文子月の朔日にさすは富貴と稱ふは天
南星にさすは徳と稱ふは又百のつ
ま家富貴さすは又百のつ
かゝるに徳と稱ふは又百のつ
さすは又百のつ
かゝるに徳と稱ふは又百のつ

アヤキ

56-4161

飯米買やうなり	薪くふりやうなり	かき回しやうなり
日大度米のり	日くりやうなり	清炭乃次郎
小麦お買やう	万代物焼やう	世芳しき雲石
大豆お買やう	弟さこのお	多家お粉お石
味噌のりやう	精進菜のり	日家お買やう
塩のりやう	又味噌乃松清	日刻お松屋
物乃次郎	香物乃松清	さくら
昆布菜	飴煙やうお松屋	おくらけ
ごりい	さくら	さくら



立身大福帳巻之六
始末乃年

高とてなんは海と過てを飲やうやうて始末を
 せのせく海と物事八枚たさただあの由きて三枚の
 若も備守事ハなりは海とさそて人いすまの義理
 物事やういあるひはよ海とさそて人いすまの義理
 の物事よあはすまの事とて一海とさそて物事を
 して海の事とてあつふあつふたあちを痛よなり
 ね徳なる事とて海とて世の繁華とて人いすまの
 ようて海とてあつふあつふたあちを痛よなり

立身大福帳巻之六

豆のけりー梅豆も色味ひ

あか

▲塩味傷ーやゆふあり

さねさく味ありハハ儀あり

ー海苔もさく味つた儀

なりちんちんハハ儀あり

新くうしんさく味あり

なりハハ儀ありーあり

みわり味ありあこ味あり

ハイトー

▲お味噌 ありハハ儀あり

をそんごありあて七味味

▲味噌 大豆のいよくし

味ありちんちん儀あり

何れも色新味あり

さく味つたーありあり

大豆をねみ味あり

さく味つた儀あり

のさく味ありーありあり

のさく味ありーありあり

火をいれてあつめり

▲油 ふくすみたるうし

みはえんたるーやゆふあり
お味噌ありハハ儀あり
二番とや分あぜにいたる
ハハ儀あり上ハト中七ト下六
分とーせうらうとありーあり
ゆであ利すくなりー中あり
すー利ありーありあり
利あり

みそハハ儀あり ちんちん儀あり 海苔もさく味あり

▲せんト菜 ありあり
色あつめりありあり

おれらねねよはくべー
けこふんれ凡倦りて
ゆせりしれね事れー
さう年楊と余着へやと
りま二日は二年ふんぞま
ちんまふりころりー
倦るれれれれれれれれ
事三年のゆみらんち
がう趣中て色さ下ぐい
おせこころんかまど二日
よ二年ねむふなれがす
しるるーた更外あて

天の海はなふやわらわら西よこ橋

なぬーさあをたく事
たさなりせんなりう
うまて細いあを小
くべせりくせはるう
りるるらるらるらー
くべらうらるらるら
らるらあをうららら
まをさあのらーありて
べー
念たてやううー
いりななたらてあ
まらうのくたくべー

三斗みゆみらんたトころ
年六あぬさほのねれ
は踏みあふらるありや
ころまらーいりさー
あうさをも念がはせむ
ころうさのーいりさ
りり先年六甲あひひ
と十一あゆみひうー
と十二あゆみあゆみ
とみとねらあん九
たうさーいりああげ
色ーまらう新ー

飯やたひやる本せんおハ

ふあはゆらううた
をさあはくうらう
がーあ人まあ
あまこくたげ
まで燃て色
凡あうあう
てあ人ま
付ううらう
あうては
ことね
よで
まらう

は月とみるん形一平二平全
 してさゆの木のまをさよま
 くハ解一先亦石ありく竹
 色ありさゆありくハ石を
 つけぬぐり一先亦石あり
 中てハ米ちぎんてさけりさ
 のせみハ尺ありハ先中てハ
 寸四分落つやうハ尺一
 色二尺ありハ尺一より多
 けがのうハ物さ色ハか
 とうり一てすハ輪ハ神よ
 一ぬめてあじぐ一但一米

よりくたけけいひまをせ
 けりくつてさ水ぐら
 わりぬあさうハ石のま
 中中て下ハさくくはる
 中中て下ハさくくはる
 けん富のちあはをみれ
 先ばりて中て一せてま
 けてたく下中て中てか
 けてさぬ中てさう一
 中中て中中て中中て中
 いのち一とたくく又あう
 中中て中中て中中て中

や海やわう一ハハ神のま
 神ハ海二一これありさま
 てハ海中てさび一ハ
 色ハはつゆす

▲さゆの木のまをさよま

らん中中てさゆ一ハ
 賞れくさゆハ神ハ神
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中

▲さゆの木のまをさよま

らん中中てさゆ一ハ
 賞れくさゆハ神ハ神
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中
 中中て中中て中中て中

てなくせんが使ひしなぬ
もをなくいふに似るそん
なりきりせんい盛せん
むういふは月なりし
中ごろの三月入り言ひ
なり今い盛せんが愛
んなりそれるもまは
や一もゆわの愛れを
樹りてふる

たむこい なるたむこ
もあまて 割みとて
ふぬるそんなりし

くもあまのまむが
いてあまが
こればうら
それりけす
れが後
箱の
チトが
はあ
箱が
半一ト
よ四ト
つぞ

葉たむこ
なりし
つひ
その
が
あ
た
これ
文
あ
あ
り

せ
す
こ
は
の
と
て
そ
い
あ
目
なる

